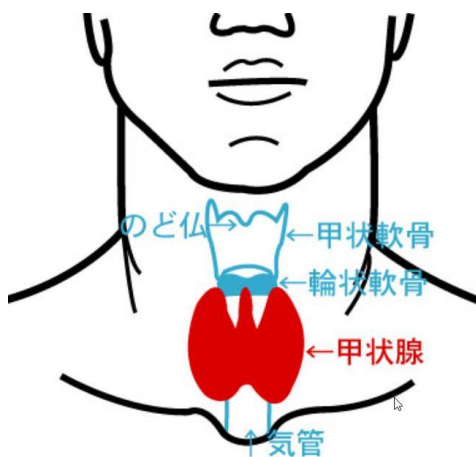

亜急性甲状腺炎

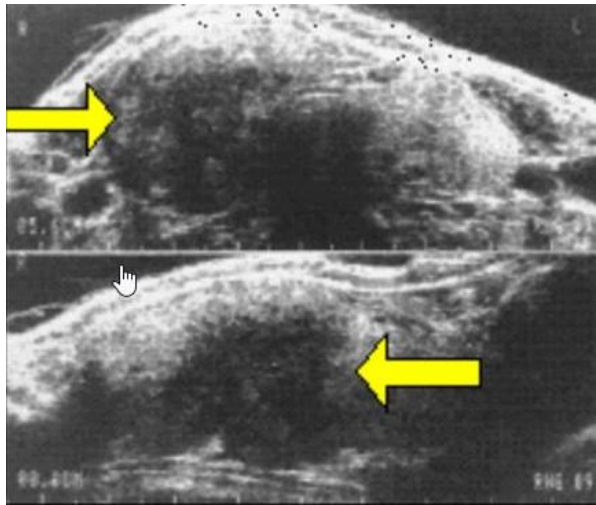
A) 甲状腺に痛みがあれば、亜急性甲状腺炎です。

原因はウイルスと考えられています。しかし、実際にウイルスの存在を証明した研究はありませんので、今のところ原因不明の病気です。

感冒様症状で始まり、発熱、前頸部痛、甲状腺腫脹、耳への放散痛などが起こります。熱が出て、喉（甲状腺部）が痛くなるので、風邪と思い耳鼻科などを受診することがあります。痛みは、反対側へ移動することが多く、同時に反対側の甲状腺も腫脹してきます。



甲状腺エコーで、炎症部位、痛み部位に一致して低エコーに見えるのが特徴です。



甲状腺の組織が炎症のために破壊されて、甲状腺内に溜まった甲状腺ホルモンが血液中に漏れ出て、一時的に甲状腺ホルモンが高くなりますが、治療ですぐ正常になりますから心配ありません。ステロイドが著効します。治療後は、甲状腺は縮小していきます。

ただ、破壊された甲状腺組織が回復するのに時間がかかることがあります。

この間は甲状腺ホルモンを作る能力が落ちますので、一時的に甲状腺ホルモンが低くなるがありますが、そのうち正常に戻ります。

稀に、甲状腺組織が破壊されて回復しない人がいます。この場合は、甲状腺ホルモン剤をずっと服用しなければいけません。

症状が軽い場合の治療はアスピリン、ひどい時は副腎皮質ホルモンが使われま

す。10人中2~3人ではクスリを減らして行くときや中止した後にまた痛くなる
ことがあります。そのときは、薬を増やすかまた飲み始めます。

一旦治ると、もう二度とかからないと考えられていましたが、100人中2人は、
またかかることが分かりました。

最近の研究ではこの病気が治った後、海草類を取り過ぎると、甲状腺機能低下症
になると言われています。